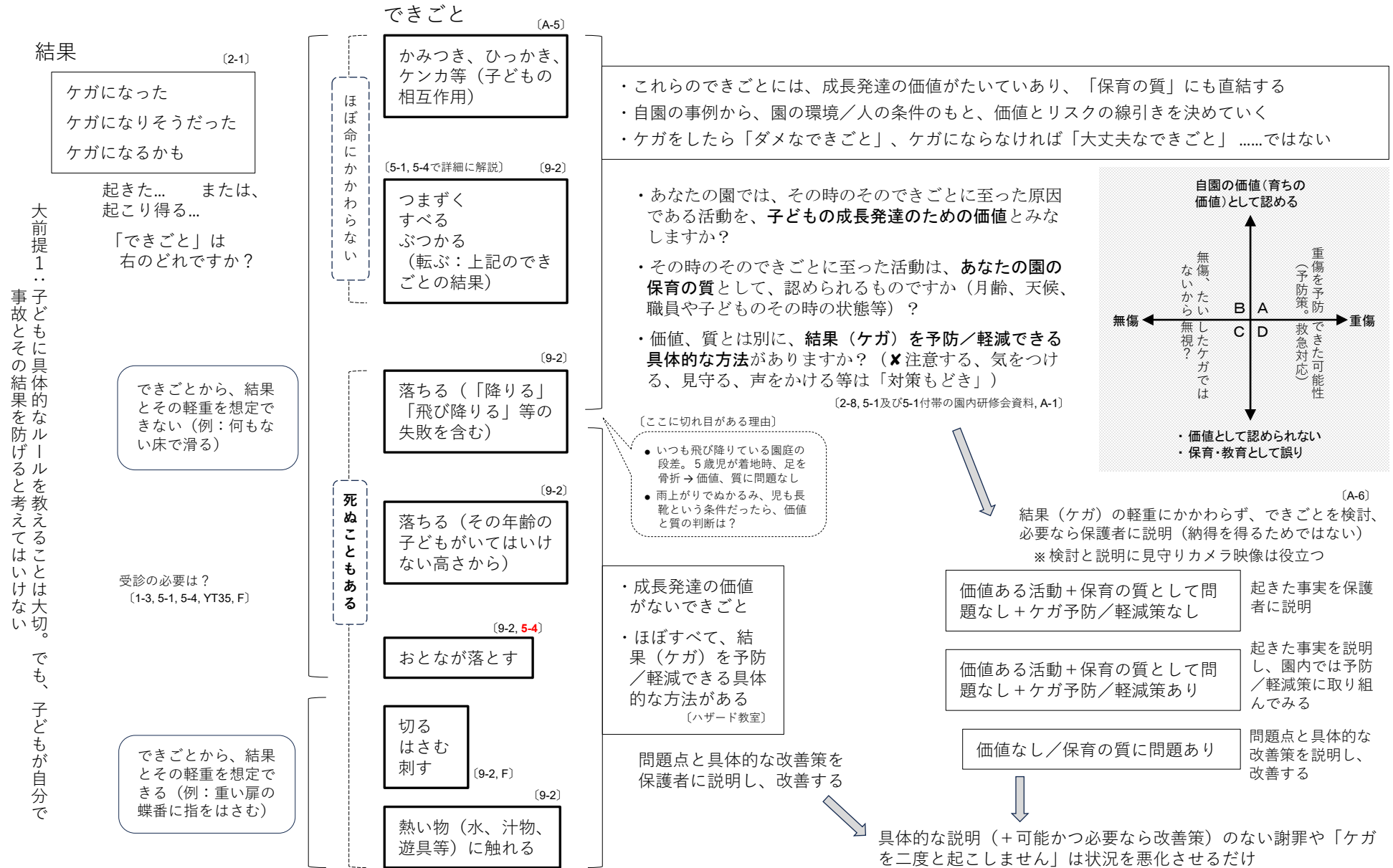


「事故予防」？「育ちの価値」？ どちらのことですか？

ところで、その「価値」は、「今の時代」「未就学児期に」「園の責任で」「集団（保育）の中で」しなければならない価値ですか？ 成長発達の科学や命の危険を無視した「良かれ」、成果主義の押しつけではありませんか？



「事故予防」？「育ちの価値」？ どれのことですか？

ところで、その「価値」は、「今の時代」「未就学児期に」「園の責任で」「集団（保育）の中で」しなければならない価値ですか？ 成長発達科学や命の危険を無視した「良かれ」、成果主義の押しつけではありませんか？

大前提2...子どもの命を守るのはおとなの責任。未就学児はまだ死を理解していない

できごと

命の危険大

息ができなくなった
息ができなくなる危なさ
(ハザード)がある

(2-1, 2-2, YT19~25, ハザード教室, 5-1)

できごとがなんであれ、結果(死亡、脳障害)を決めるのは「息ができない時間の長さ」

食事は避けられない

ハザード(物、環境)の制御が可能

水中の異常にすぐ、必ず気づける方法はない

条件上、最も危険

喉か気管に**食物が詰まる**(誤嚥窒息)

(4-2, YT21~25)

(4-1, YT20)

喉か気管に玩具や物が詰まる(誤嚥窒息)

首が絞まる/押される(絞扼)(2-2, 5-3, F)

鼻と口がふさがれる(2-2, 3-1, 3-4, YT26, 27)

溺水(7)

条件上、最も危険

気道異物除去をしても、解除できない可能性あり

詰まりやすい材質、形状は明白

早く見つけさえすれば、息ができない状態を解除するのは容易

命の危険大

誤飲した
誤飲ハザードがある

きわめて危険なのは(4-4)

- ・ボタン電池
- ・磁石
- ・水でふくらむ玩具
- ・体内で刺さるもの

左以外は健康観察、便の観察

誤嚥：嚥下しそこねて、喉か気管にはさまっている(喉か気管が完全に詰まったら完全閉塞=誤嚥窒息)

誤飲：体内に入れてはいけないものを飲み込んだ状態(0歳のハチミツ、子どものアルコールも誤飲)

(4-1)

狭く、閉じられた場所に閉じ込めた
屋上園庭に閉め出した

命の危険大(8-2, YT36, 37)

暑熱ハザード(高温、高湿)

取り残さないことが容易。「誰もいない！」声出し指差し確認を必ずする(職員の行動ルール★)

(YT10)

園の敷地から外へ出た
散歩中に見失った

- ・送迎時間帯は保護者の責任も大きい(保護者の行動ルール★)(B-2のひな型)
- ・バリア(鍵、パーテーション等)を増やして、敷地から出るまでに時間がかかる(職員が気づきやすい)ようにする。鍵は必ずかける等、おとなのルール★(ハザード教室)
- ・散歩の見失いを防ぐ基本は、「子どもの数を減らす」(YT12~15, 5-2, B-2のひな型, ハザード教室)

人数確認は「いなくなった」と気づく方法であり、気づいた時には手遅れかもしれない。対策は「いなくなるようにする」「出ていけない/出ていきにくい環境にする」

アレルギー源に曝露(誤食、粉塵の吸入、接触等)

- ・診断書のない子どもが発症することも
- ・「口にする」以外の曝露経路もある
- ・製造/納入ミス、ヒスタミン食中毒は園の責任ではほぼない(6附(1))

「口にした」「食べる直前に気づいた」事例(=職員の行動ルール★がすべて失敗)よりも、納品~配膳に気づけた事例を活かす。行動ルール★が奏功しているとわかり、効用感も上がる

(2-6)

~し忘れ
~し間違い

- ・人間の脳の基本は「ぼんやり」→「忘れる」「間違える」は当然(2-6)
- ・本人が気づける方法(声出し指差し確認等★)、他人が気づける方法を(2-3, 2-6, YT9)
- ・異物混入は「とにかく目視確認」ではない(6-1)

★行動ルールは曖昧(×気をつける、注意する等)ではダメ。「誰がしても同じ行動になる」ように記述する=マニュアル(2-7)

(YT5)